

## 確認問題

### 6 保育の心理学 ① 発達概念

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 発達とは、成長や成熟を指し、誕生から20～25歳の時期における心身の変化のことである。
- 2 ワトソンが発達要因として指摘した環境は、調整しないありのままの環境を指している。
- 3 シュテルンは、発達の規定要因として遺伝も環境も関係があると唱えた。
- 4 ブロンフェンブレンナーは、子どもを取り巻く環境を生態学的システムとして4つの水準を提唱し、子どもは家族や保育所等の環境に支えられて発達すると考えた。
- 5 環境移行は子どもには大きな不安や混乱をもたらすので、できるだけ避けなければならない。

#### 解答

- 1 × 誕生から死に至るまでの心身の変化である。
- 2 × 調整された環境を指している。
- 3 ○
- 4 ○
- 5 × 不安や混乱をもたらすのは事実だが、新しい視点、新しい行動様式の獲得等のよい面もある。

## 確認問題

### 6 保育の心理学 ②子どもの発達理解

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 保育士が8か月の乳児を抱っこして離れたところのぬいぐるみを指すと、乳児もそれを見ることがある。これを共同注意の成立という。
- 2 2歳頃には、鏡に映った自分を自分であると理解できるようになる。また、この頃は、自己意識が強くなり自己主張をするようになる。
- 3 社会的参照とは、幼児が大人の表情等を手がかりに自分の行動をコントロールすることをいう。
- 4 他者の心の状態を推測したり、異なる考えを理解するところの理論は、10歳以降に獲得される。
- 5 ピアジェは、人が環境にかかわるとき、すでにもっている認知構造(シエマ)にあてはめて対処する「同化」と、自ら枠組みを変えて対処する「調節」がはたらくことで発達が進むと考えた。
- 6 ピアジェによる保存の概念の成立は、数・量に関することが一番早く、5～6歳頃である。

#### 解答

- 1 ○
- 2 ○
- 3 ○
- 4 × 10歳以降ではなく、4～5歳頃。
- 5 ○
- 6 × 5～6歳頃ではなく、7～8歳頃である。

## 確認問題

### 6 保育の心理学 ③言葉と社会性の発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 母音と子音の構造をもつ基準喃語（反復喃語）は、6～7か月頃に現れる。
- 2 大人が大きく口を開けて見せると、乳児も同じようにまねることを情動伝染という。
- 3 生後3か月頃、あやすとほほえみ返す微笑は、人を意識するもので、選択的微笑と呼ぶ。
- 4 人見知りとは、母親等の特定の人を区別できるようになる1歳以降に現れる。
- 5 パーテンによる連合遊びは、みんな同じ遊びをしているが、グループ内での組織化はみられない。

## 解答

- 1 ○
- 2 × 情動伝染ではなく、共鳴動作である。
- 3 × 選択的微笑ではなく、社会的微笑または3か月微笑である。
- 4 × 1歳以降ではなく、6～7か月以降である。
- 5 ○

## 確認問題

### 6 保育の心理学 ④人とのかかわりと発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 ボウルビーによると、愛着とは特定の人との絆のことで、その後の人間関係の基盤となる乳幼児期の重要な課題である。
- 2 幼児期には、目の前に養育者がいなくても、養育者をイメージすることができる。このことを内的ワーキング・モデルと呼び、これによって子どもは安心感を得ることができる。
- 3 エインズワースは、愛着形成の発達過程をみるために、ストレンジ・シチュエーション法を開発した。
- 4 エリクソンは、幼児後期の発達課題として「自発性 対 罪悪感」を挙げている。
- 5 エリクソンによる青年期の発達課題は「親密 対 孤独」である。

## 解答

- 1 ○
- 2 ○
- 3 × 愛着形成の発達過程ではなく、愛着形成の質である。
- 4 ○
- 5 × 「親密 対 孤独」ではなく、「同一性 対 役割の混乱」である。

## 確認問題

### 6 保育の心理学 ⑤胎児期から幼児期の発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 出生時、感覚器官の中で比較的よく発達しているのは聴覚である。
- 2 新生児期の哺乳反射（原始反射）は、反射的な反応から自分の意思で乳首を求めようになり、やがて食行動へと移行する。
- 3 新生児の手のひらをそつとなでると、それをつかもうとするかのように手を握る反射的反応をモロー反射という。
- 4 幼児期の傾向のひとつとして、物にはすべて命があるという見方があり、幼児は何にでも顔を描く。これを実念論という。
- 5 第一次反抗期は、3歳前後の現象で、自我の芽生えによるものと考えられている。

## 解答

- 1 ○
- 2 ○
- 3 × モロー反射ではなく、把握（ダーウィン）反射である。
- 4 × 実念論ではなく、アニミズム（物活論）である。
- 5 ○

## 確認問題

## 6 保育の心理学 ⑥学童期から老年期の発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 学童期は、ピアジェによる「形式的操作期」を迎え、徐々に論理的思考が可能になる。
- 2 学童期中期になると、次第に仲間の影響力が強くなり、仲間意識を強めて行動を共にする。この時期をギャング・グループ（ギャング・エイジ）と呼ぶ。
- 3 アイデンティティの確立は、青年期の基本的な課題であるが、組み換えや再構築などが繰り返され、生涯的なものと考えられている。
- 4 モラトリアムは、自分の生き方を見つけるために社会が認める猶予期間である。
- 5 エリクソンによると、老年期の発達課題は「生殖性 対 停滞」である。

### 解答

- 1 × 「形式的操作期」ではなく、「具体的操作期」である。
- 2 ○
- 3 ○
- 4 ○
- 5 × 「生殖性 対 停滞」ではなく、「自我の統合 対 絶望」である。

## 確認問題

## 6 保育の心理学 ⑦ 発達に応じた保育

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 レジリエンスとは、困難な状況に出合ったとき、柔軟に対応し乗り越えていく力のことである。
- 2 トマスとチェスは、子どもの気質について6つの特性を見出し、「扱いやすい子」「扱いにくい子」「立ち上がりの遅い子」の3タイプに分類した。
- 3 ガードナーは、5つの異なった知能があると説き、多重知能としていくつも重なって子どもは活動するととらえている。
- 4 ヴィゴツキーが唱える「発達の最近接領域」は、子どもが自力でできるレベルと、他者の助けでできるレベルの間（領域）のことである。
- 5 ギブソンは、自然に驚いたり、感動したりする情動的経験をセンス・オブ・ワンダーと表現した。

## 解答

- 1 ○
- 2 × 6つではなく、9つである。
- 3 × 5つではなく、8つ。
- 4 ○
- 5 × ギブソンではなく、レイチェル・カーソンである。

## 確認問題

## 6 保育の心理学 ⑧ 保育における心理学の実際

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 保育所保育指針は文部科学大臣が告示するもので、現場での保育の基準としている。
- 2 保育所保育指針において、各時期に示されている発達の特性は、その時期のひとつの基準とし、子どもの援助を行ううえで大切なものである。
- 3 保育所保育指針は、子どもの発達援助に関して示しており、職員に関することは示されていない。
- 4 子どもの実態把握をするための観察法は、長時間かかることが多い。しかし、テスト法では短時間で多くの情報を得ることができる。
- 5 ビネー式知能検査は成人用であり、幼児には使用できない。

## 解答

- 1 × 文部科学大臣ではなく、厚生労働大臣である。
- 2 ○
- 3 × 職員に関することも示されている。
- 4 ○
- 5 × 幼児・児童にも使用できる。

## 確認問題

## 6 保育の心理学 ⑨精神保健1

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 自閉スペクトラム症は、2～3歳頃までに発症し、女児に多い。
- 2 注意欠如・多動症は、不注意、多動性、固執性の症状がみられる。
- 3 運動チックと音声チックをともなうものをトゥレット症候群といい、男女比が3：1といわれている。
- 4 反応性愛着障害は、5歳までに発症し、人に対して過剰に警戒心を抱き、親しい関係に慣れない傾向がある。
- 5 分離不安障害は、大切な人から離れるときの過剰な不安によるものであるが、3歳未満児では正常な反応である。

## 解答

- 1 × 女児ではなく、男児に多い。
- 2 × 固執性ではなく、衝動性である。
- 3 ○
- 4 ○
- 5 ○

## 確認問題

## 6 保育の心理学 ⑩精神保健2

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 知的能力障害（知的障害）は、その原因が特定できないものとして、染色体異常がある。
- 2 摂食障害は、心身症のひとつで、児童期に多くみられる。
- 3 指しゃぶりは子どもの正常な発達過程でみられる癖であるが、爪噛みは正常な発達過程にはみられない。
- 4 夜尿症は、排泄自立後に現れるもので、心理的要因も考えられる。
- 5 パニック障害の3大症状は、パニック発作、予期不安、対人恐怖である。
- 6 現代における子どもはストレスが増えてきており、不安障害も増加傾向にある。心の問題であるが、子どもは身体的症状を訴えることが多い。

### 解答

- 1 ○
- 2 × 児童期ではなく、思春期である。
- 3 ○
- 4 ○
- 5 × 対人恐怖ではなく、広場恐怖である。
- 6 ○